

中学3年2組 国語科学習指導案

指導者 鳥屋尾 慎 人

パブリック・スピーキングを聞き手として体験した上で、友だちの発表を聞き、その発表について意見交流することは、自らが話し手となったときに、他者のよさを取り入れ、説得力のある発表をするための手立てとして有効であったか。

1 単元名 聞き手や目的に合わせて表現を工夫しよう！ ～パブリック・スピーキング～

2 単元のねらい

聞き手の実態に応じて発表内容を考え、語句や文を効果的に使い、説得力のある発表をすることができる。

3 授業の構想

(1) 本学級は、落ち着いた態度で学習に取り組むことができる生徒が多い。今まで「話すこと」の学習では、スピーチやプレゼンテーションを行い、自らが伝えたいことを聞き手にきちんと伝えることをねらいとして学習してきた。その中で、話し方や話す態度について繰り返し指導してきたが、聞き手のことを考えずに、自分のペースで話す生徒が多い。それは、大勢の人の前で話すことに苦手意識を抱えているのが原因だと考えている。

そんな中、自分もつ知識や自分独自の考えを発表することには意欲が高くなる面が見られる。ただ単に情報を伝える活動よりも、「自分はこう考えている」と主張することを好む傾向がある。事前に行う聞き手の実態アンケートを見て、「自らの発表を通して聞き手の気持ちを揺さぶりたい」、「心情を少しでも変えたい」と思うことができれば、意欲的に表現を工夫したり、発表を吟味したりする姿が期待できる。生徒が「みんなに話したい」という思いをもつことや、「こうなりたい」という願いをもつこと、生徒が考える到達点へ分かりやすい見通しを立てられることで苦手意識を乗り越え、聞き手に意欲的に発表する姿を期待したい。

(2) 以上のような生徒の実態と、本学校園国語科で考えている「一人一人が問いをもち追求する姿」を考えたときに、本単元では「どのように伝えるか見通しをもとうとする姿」「伝え合ったり話し合ったりしたことを振り返り、自分や他者の選んだ方法・手段について吟味する姿」が見られることを期待したい。本単元のパブリック・スピーキングであるが、生徒は初めて耳にする言語活動である。パブリック・スピーキングの目的を、「聞き手の価値観を揺さぶり、心情に訴えかけて考え方を変える」ために行うものだと考え定義した。構想する中で、話し手は自分が伝えたいテーマに対して、「聞き手がこのように考えているから、これを変えるためにはどうすればよいのだろう」と問いをもつことができる。また、生徒が自らの思い描く発表にどう近づいていけばよいか見通しを立てられるように、パブリック・スピーキングにおける語句や文の効果的な使い方とはどのようなものかを全体で共有する。そうすることで、話し手の工夫や語句や文の効果的な使い方を見付けることができ、自らの発表に取り入れられるかどうかを吟味する姿が見られるのではないかと考えている。

(3) 本単元を組むに当たり、以下の点を手立てとして指導していく。

① 生徒が見通しや憧れをもつための発表モデル

単元の開始段階で、聞き手の価値観や考えを劇的に変える発表を眼にしたときに、生徒は「あんな

ふうに発表したい」という願いを持つだろう。そして、「どうしたら、あんな発表が出来るようになるだろう」という問いをもつに違いない。願いをもつことが、単元を通じて問いをもち続ける原動力となり、聞き手を説得するためにはどうすればよいのか表現や言葉の工夫に注目し、自らが思い描く発表まで取り組めると考えている。

② リアリティのある場、明確な相手意識、目的意識の設定

事前に聞き手の実態を知るためにアンケートを行う。アンケートを通じて、テーマに対する聞き手の実態を知ること、明確な相手意識を持つことが出来る。発表するテーマについて全く知らない聞き手なら、興味を引きつけるような発表内容・表現の工夫が必要になる。また、アンケートを通じて知った聞き手の実態をもとに、発表で聞き手の価値観や考えを変えるという「目的意識」を明確にできるので、意欲を継続させることができるだろう。聞き手は、学級の友だちという設定にした。これは、生徒の実態として自分の思いや内面を伝えることを目的とすると同学級・同年齢の生徒に伝えにくい、ある事柄についての知識や考え方を発表することは好み、「こんな考え方ができるんだ」とか「こんなことを知っていたのか」と同級生に思われたいという心情があると考えたからである。

③ グループINGの工夫、モニタリング

発表を構想するときには、同じ様な発表テーマをもつ友だちと班を作る。また、友だちの発表を聞いたときには、生活班で発表を振り返る。異なったテーマで構想するメンバーと発表を振り返ることにより構想段階とは違った視点をもつ友だちと意見交流が出来る。また、自らの発表や友だちの発表の吟味が深まり、多くの視点から発表者のよさを見付けることになり自らの発表や友だちの発表の吟味が深まり、より自らの発表に生かす姿が見られるのではないかと考えている。

4 展開計画（全9時間 本時7／9）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容
1	・パブリック・スピーキングとは何だろう？ ・話し手のどこがすごいのかを考えよう。	1	・パブリック・スピーキングの具体的な例を見る。 ・話し手の工夫や話し手のよいところを考え、目指す話し手のイメージをふくらませる。 ・パブリック・スピーキングの大切な点を共有し、発表で意識することを焦点化する。 ・パブリック・スピーキングは聞き手の価値観や考え方を揺さぶる言語活動であることを知る。
2	・発表のテーマを決めよう。 ・同級生の価値観や考え方を知ろう。	2	・社会生活の中から題材を集め、「〇〇のよさ」という観点から話しやすいテーマを決める。 ・聞き手の実態をつかむアンケートを考える。
3	・聞き手の実態に合わせた発表を考えよう。 ・意見交流をし、発表をよりよいものにしよう。	3 4 5	・聞き手の実態を知り、発表内容や表現の仕方を考える。 ・発表内容を原稿に書き、1次で学習した聞き手の価値観や考え方を考える工夫を取り入れる。 ・「環境」「趣味」等、同じようなテーマを選んでいる人同士で原稿を読み、付せんやメモを交換し、意見交流をする。
4	・パブリック・スピーキングをしよう。 ・友だちの発表のよさ・工夫を見付け取り入れよう。 ・発表を振り返ろう。	6 ⑦ 8 9	・話し手としてパブリック・スピーキングを行う。 ・聞き手として、他者の発表を聞き、よさや工夫をメモし、意見交流に備える。 ・生活班で意見交流し、他者の発表のよさや工夫を自らの発表に取り入れる。

5 本時の学習（7／9）

(1) ねらい

友だちの発表を聞き、見付けたよさや工夫を自らの発表に生かし、語句や文を効果的に使い、説得力のある発表をすることができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
1. 前時の学習を振り返り、前回出てきた友だちの発表のよさや工夫点を思い出し発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に印象的な語句を最初に持ってきていた。 ・一文が短くテンポがよかった。 ・反復法があった。 ・比喩を使っていた。 ・聞き手の興味を考えていた。 ・質問やクイズを入れていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の友だちの発表を振り返り、よかった点、工夫されていた点について板書をして整理する。
聞き手の考えや、気持ちを揺さぶる発表をしよう。	
2. テーマ別の班で発表の準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇君の発表の〇〇な部分を、真似して発表できる気がする。 ・自分は、〇〇という工夫をしたけれど発表を終えて、この方がよかった。 ・〇〇さんの様に数字を入れて、具体的な根拠があると説得力が増す気がする。 ・前回〇〇ということ大切に、発表の工夫を考えたけれどとてもよかった。 3. 発表をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の発表者のテーマや原稿から、先程振り返った、よかった点や工夫で使えるところがあれば、アドバイスをする。 ・聞き手が発表者のすごい点、工夫点、よさを付せんにメモできるようにする。
評価の観点（話すこと） 友だちの発表のよいところ・工夫を取り入れて自らの発表に活かし説得力のある発表をしている。 【評価方法 発言・観察・ワークシート】 支援 説得力のある発表をするために、語句や文の使い方どんな工夫ができるかを考えられるような声かけをする。	
4. 本時の話し手の発表について生活班で振り返る。ホワイトボードに、付せんを貼り付けて、考えを共有し全体に発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇君の発表は、印象的な言葉を繰り返していた。 ・反対の考え方をあえて出し、自分が言いたいことを強調していた。 ・クイズを最初と最後に持ってきていて、発表の最初と最後で自分の考えが変わったことがよく分かった。 ・自分の考えに全くなかったことを紹介し、今まで考えていた正しいことだと思っていた考えが変わってしまった。 5. 本時の学習の振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表が終わった生徒は、自分のアドバイスを振り返り、話し手は、反省点や課題を整理し、聞き手は、友だちの発表を自分の発表にどのように取り入れるのか考えられるようにする。 <p style="text-align: right;">〈ワークシート〉</p>

(3) 本時で目指す子どもの姿

◎聞き手として、友だちの発表のよさを自らの発表に取り入れようと主体的に聞く姿

◎話し手として、語句や文を効果的に使い説得力のある発表をする姿